

72 0640

77

三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	日
被雷沈没	護イ中					那覇	一二四五	掃蕩		一二一五					夕カハハ	護イ	〇六〇〇	掃蕩		石垣	〇九〇〇	掃蕩	宮古	〇五〇〇	掃蕩	基隆	一四三〇		護イ	宝永丸
																										中	理	修	長崎	
				分夕四二	護イ	一〇〇〇		哨戒		〇六〇〇																中	理	修	佐世保	
		鹿見島	一〇〇〇	哨戒	一〇〇〇			護イ	夕カ九〇九	掃蕩	〇六〇〇			基隆	二二〇〇	分夕七二九	護イ	一〇〇〇				那覇	二〇〇〇	護イ	七次大東丸	一五〇〇		護イ	太安丸	
		鹿見島	一〇〇〇	哨戒	〇五三〇			護イ	夕カ九〇九	掃蕩	〇六〇〇			基隆	二二〇〇	分夕七二九	護イ	一〇〇〇				那覇	二〇〇〇	護イ	七次大東丸	一五〇〇		護イ	太平丸	
						那覇	一三三〇	掃蕩	一〇〇〇	掃蕩	一七〇〇	霸		那覇	一七〇〇		戒			哨			那覇	一四〇〇		坐礁	哨	哨	哨	
						那覇	一三三〇		哨戒	掃蕩	一七〇〇	霸		那覇	一七〇〇	救難作業	一五〇〇	霸	那覇	一七三〇	哨戒		那覇	一五〇〇	那覇	一三〇〇	護イ	護イ	護イ	大東丸
				那覇	一五〇〇	護イ	一六〇〇		古	宮	一六〇〇	哨戒	一四〇〇	霸	那覇	一三〇〇		護イ	一八〇〇	那覇	一〇〇〇	護イ	夕カ七二九	島	見	鹿	鹿	鹿	鹿	鹿

1620

73

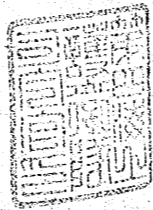
第四海上護衛隊
沖繩方面根據地隊
戰時日誌

第四海上護衛隊
沖繩方面根據地隊
司令部



自昭和十九年十月一日
至昭和十九年十月五日

十一月一日發行



目次

- 一 經過
- 二 人員、現狀
- 三 令達報告等
- 四 戰訓
- 五 作戰經過概要

(目次終)

自昭和十九年十月一日第四海上護衛隊 戰時日誌
 至昭和十九年十月五日沖繩方面根據地隊

一 經過

南西諸島海面配備、敵潜水艦ハ依然トシテ五乃至六隻ト推定セラレ其、動靜活潑ニシテ本格的補給路遮断ニ移行セルモ、如シ十月、中當隊担任海面ニ於ケル敵潛出現狀況別圖、通信謀報ニ依レバマリアナ方面滯在中、敵機動部隊ハ十月一日頃西方ニ向ケ出動、菲島北部、台灣、南西諸島方面ニ對シ策動ヲ開始セル氣配濃厚ナリシ處、九日鹿屋ヨリ發進セル哨戒機、八四五都井岬、一四〇度四五の埋附近ニ於テ通信連絡ヲ断テ未帰還、次テ十日、六五〇ヨリ一五四迄敵艦上機延約五〇機奄美大島、沖繩島、久米島、宮古島、南大東島ニ來攻、十二日台灣空襲ト關聯宮古島、石垣島ニ來攻セリ。

敵機動部隊、菲島空襲引續キ敵大部隊、レイテ島上陸ニ伴フ戰場、南移茲ニ戰果ト關聯當方面ニ付スル敵機動部隊來襲、算、稀薄トナリタルモ陽動牽制的空襲茲ニマリアナ基地

在皮、基地ヨリスル大型機、來襲ニ對シ嚴重警戒、要アリ

(二) 我軍ノ狀況

海上護衛

十月十日ニ於ケル各部隊ノ行動率次ノ通
 護衛本隊四三% 大島護衛部隊四八% 沖繩護衛部隊二九%

(2) 直接護衛

日	船隻番號	隻數	總噸數	護衛	艦	砲	圍	記事
四	第七次大東島方面輸送			第一拓南丸 大斗丸		古仁屋 南大東島		
六	夕力四一〇 一四三四七六〇			真鶴 怒和島 三新東丸 八長運丸 三長運丸 古七丸		基隆 鹿見島 宮古 鹿見島		
六	夕力十六〇五	四	一〇三三八	燕 三拓南丸 太安丸		佐世保 那霸		
二	力夕九一六	二〇	三六〇六七	海防三〇 掃一五 野習四九 六昭南丸 七利丸 真鶴 狂島丸		鹿見島 那霸 鹿見島 基隆		
二	力夕六〇三	二	六五四八	燕 蘭丸 太安丸 三拓南丸		那霸 鹿見島		
二	力夕八光丸	一	一〇三〇	真鶴 掃一五 第七利丸		那霸 古仁屋		
三	八方面輸送	七		古仁屋 南大東島		古仁屋 南大東島		
三	八方面輸送	六		三號 報國丸		古仁屋 南大東島		

(4) 對潛掃蕩

(一) 三日一三五〇ノ一一度一三介E一三〇度ニ三介ニ於テ第二ニ輸送隊敵潛ヲ
 シキモノヲ發見セルヲ以テ第五土橋州丸有章丸 太安丸ヲ以テ掃蕩
 セルモ敵情ヲ得ズ 四日一七三〇掃蕩ヲ止ム

(二) 四日一〇〇〇ノ三一度二二介E一三九度五三介ニ於テ四五三空 磁探機敵
 潜水艦ヲ發見攻撃セルモ効果ナシ 爾後磁探機三機ヲ以テ搜
 攻セルモ敵情ヲ得ズ

(三) 六日一七三六ノ三二度一〇介E一三九度四九介ニ於テ力夕十六〇五船隻護衛
 艦太安丸 艇首一二〇〇米ニ明瞭ナル金屬性反響音ヲ探知記録
 シ一〇〇米迄保續探知次テ一七四三燕一五〇〇米ニ探知ス一七五一
 太安丸 第一回攻撃保續探知第一回攻撃ヲ行ヒ反響セルニ濃厚ナル重油
 盛ニ湧出スルヲ確認 湧出点附近ニ燕 太安丸 聯合投射ヲ實施
 シ監視中一八四三燕再ビ三五〇米ニ保續探知第三回攻撃一九二一
 太安丸 聯合投射点附近ニ反響音ヲ得 第三回攻撃ニ五九更ニ
 前記地点ニ保續探知第四回攻撃ヲ加ヘ掃蕩續行中夜陰ノ爲
 重油湧出狀況ハ不明ナルモ明ニ判別シ得ル幅約三〇〇米長サ散料
 ニ及ブ重油帯ヲ確認スルト共ニ強烈ナル重油臭ヲ感じ爾後聽知音
 ナレ一七三〇三〇降雨ノ爲重油帯ヲ見失ヒタルモ一七三〇三〇ニ至リ昨夕ノ

20

攻襲地点附近ニ高重油、湧出スルヲ認メタリ撃沈確實
 (四) 二日〇七二六ノ九度一八分三三九度四分ニ於テカタ九一六艦因中、
 室戸及富津丸雷撃ヲ受ケ室戸沈没富津丸大破セルヲ以テ所在艦
 艇航空機ヲ以テ掃蕩中ノ九一五掃五飛行機ヲ誘導ニ依リ爆雷
 攻撃續イテ海防三〇爆雷攻襲気泡誌ニ油湧出長サ一五〇米中
 五〇米ニ擴大ス、爾後掃蕩ヲ續行スルモ敵情ヲ得ズ掃蕩ヲ止ム
 (五) 二五日〇五五ノ七度一七分三三九度四分ニ於テカタ九一六艦因獲
 衛艦掃一五浮上潜水艦ヲ發見砲撃ヲ加ヘタルニ直ニ潛没第七利丸
 ト共ニ掃蕩セルニ敵情ヲ得ズ、二六日一二〇〇掃蕩ヲ止ム。

陸上防備

(四) 十日、敵機動部隊、空襲ニ依リ那覇市ニ依存セル部外労働力ヲ
 喪失セル爲之ガ回復ニ遭難艦艇乗員ヲ收容應急労働力トシテ
 左記ニ依リ沖縄地区、應急戦備ヲ促進ス
 (一) 戦闘指揮通信施設、完備ヲ優先トシ防備施設ヲ重点的ニ概成ス
 (二) 沖縄根送信機ハ速ニ現ゴソクリト、掩蓋施設及第二五航隊墜道
 式通信室ニ移装シ通信用發電機ハ速ニ墜道ニ移装スルト共ニ探
 照灯用(六〇)發電機ヲ補助トシテ使用シ得ル如ク施設ス
 (三) 防空指揮所ヲ速ニ赤嶺高地ニ移設シ見張施設及通
 信施設ヲ設ク
 (四) 豊見城七四高地ニ司令部戰闘指揮所新設、爲所要、地下施
 設並ニ通信網、構成準備ヲ行フ
 (五) 防空砲台ハ左ニ依リ工事ヲ強行ス
 第一第三防空砲台ハ應急労働力計一〇〇名ヲ供給シ急速完
 備シ其、他、砲台ハ固有砲台員ノ全力ヲ以テ工事、補修ヲ行フ
 (六) 平射砲台ハ左ニ依リ重点的ニ工事ス
 第一第二第三第四砲台ハ應急労働力各五〇名ヲ供給シ急速完
 備シ其、他、砲台ハ施設部隊、技術的指導下ニ陸軍兵力ヲ以
 テ工事ヲ併行セシム
 (七) 彈火藥糧食等、分散格納ハ各部毎ニ極力地下施設ヲ利用
 (新設)ニ安負ス

(2) 十月末ニ於ケル陸上防備進捗状況、如シ

南西諸島防備進捗状況(%)

防空砲台	12C HA	機銃	防空砲台	機銃
100	100	100	沖繩島	宮古島
100	100	100	石垣島	北東島
100	100	80	南大東島	沖大東島
100	60	100	奄美大島	喜界島
100	70	100	久米島	沖永良部
100	50	100	口島	島
100	20	100		

(三) 作戰指導
 (1) 第三十二軍下協定
 海軍平射砲台戰關指揮ニ関スル陸海軍現地協定

	通信		射擊		砲台		海面					台
	見 所 受	見 所 受	魚 雷 射	探 照 燈	15C 榴 砲	12C 砲	8C 砲	12C 砲	14C 砲	15C 砲	15.5C 砲	探 照 燈
沖繩島	40	80	30	50	40	60	40	50	80	0	75	50
宮古島	45	90				100	50		75	70		40
石垣島	45	100				60				20		50
北東島	15	30						5	10			30
南東島	25	30				100		100	100	30	30	10
沖大東島	10	100						100				
奄美大島	25	80							100	30		
喜界島	30	100									20	
												50

與那國島
 口永良部
 宝島

二人員現狀
 司令官部
 主要職員官氏名

別紙第一、通
 別紙第二、通

四麾下艦艇部隊、行動

- (1) 沖繩方面根據地隊司令官、各島嶼、平射砲台及沖繩北飛行場、防空機銃砲台ヲ第三十二軍司令官、定ル指揮官、指揮下ニ入ラシム
- (2) 前項砲台配置茲ニ重要戰關任務、付與ハ陸海軍協議、上決定シ細部ハ陸軍指揮官、定ムル所ニヨル施設ハ主トシテ海軍之ニ任スルモ指揮通信施設ハ陸軍之ヲ擔當ス
- (3) 第一項兵力ニ付スル教育訓練ハ陸海軍共同擔任シ人事給與補給宿營衛生ハ海軍ニ於テ掌理シ陸軍之ヲ援助ス
- (4) 情況ニ依リ平射砲台、砲台員ハ陸軍兵力ヲ以テ編成スルコトアリ此際陸海軍ハ教育訓練ニ関シ援助ス 右砲台ハ別ニ協定ス
- (5) 前諸項細部ニ関シテハ別ニ定ム

別紙第一、通
 別紙第二、通